

平成30年度事業実績報告書

社会福祉法人 椎原寿恵会

佐賀事業部

<特別養護老人ホーム 真心の園>

平成30年度においても介護職員不足は継続し、平成29年12月より休止中の旭1階の1ユニットを再開することができなかった。退職者数は平成29年度を下回ったものの必要数の職員確保ができなかった。職員不足は現在も慢性化しており、来年度も継続して新規職員の獲得、現任職員の負担軽減に努めていく。また外国人雇用・外国人留学生受入についても、国内外の動向をみながら随時検討し、研修体制を含めた受入体制を整備していく。

入居者の高齢化・重度化は継続しており、死亡退居者・長期入院による退居者の増加も継続した。旭1階休止の影響もあり、入居稼働率は86.1%にとどまった。平成31年度は、入所率93%を稼働目標とし、居宅系事業所への施設入所状況の案内、医療機関においては各病院の医療連携室に定期的に出向くなど、情報交換とネットワーク構築に継続して努めていきたい。特に協力医療機関であるまごころ医療館の連携室とは連絡・連携を密に行い、ショートステイ長期利用者を含めた待機者の確保と、新規入居者獲得について相互の連携を強化していく。

<真心の園ショートステイ>

行事などの活動予定や空き状況を関係機関に配布する取り組みを継続し、また特養待機者へのショートステイ利用への声掛け・ロングショート利用者を一定数確保する調整など、定期的な戦略会議を開催。安定した利用者数の獲得に向けた取り組みを年間を通して実施したが、冬季の入院者増による利用者減も影響し、最終実績としては1日平均14.6名にとどまった。来年度は冬季の利用者減をみこした新規利用者獲得調整を行い、今年度同様の1日平均17名を目標とし、年間を通した稼働率アップへつなげていく。また他の在宅支援サービス・家族との連携・調整にも課題が残っており、ショートステイは在宅支援サービスであることの再認識を含め、在宅サービスとしての質の向上にもつなげていきたい。

さらに来年度は、目的をもったショートステイ利用増を目標に、アクティビティの充実等を検討実施し、利用者の獲得につなげていきたい。

また来年度は、特養のユニット再開と合わせて、ショートステイの低床化についても検討していく。

<デイサービス事業>

- ・定期的に各事業所訪問し、担当者会議に参加し空き状況等を伝え営業活動に努めた。又利用日の変更及び追加、緊急利用等柔軟に対応し受け入れを行う事ができた。
- ・多様化するニーズ・困難ケースの受け入れにあたり、外部研修への積極的な参加、内部研修（研修報告含む）やミーティングを実施し、職員個人及び事業所全体の向上を図った。

・機能訓練については、生活環境の困難な要因を探り、身体機能に応じた訓練の実施を行い自立支援へ向けた取り組みができた。又利用者の意見・嗜好も参考に、意欲や

<訪問入浴サービス事業>

・事業所への営業活動を実施。新車の導入により、機材・機能面での充実性もあり、又利用者の状況を把握し、家族、主治医、ケアマネージャー等との連携を図り、安全で快適な入浴の提供ができた。

<ホームヘルパー事業>

・新帳票の導入により記録の効率化を図り、業務の短縮化に繋げる事が出来た。利用者が必要としている適切な介護を行うことが出来る様にミーティングにてさらに情報の共有を行った。又自立支援の為、自立支援ケア会議や担当者会議に参加し、関係機関との意見交換を行い連携に努めた。

・利用者が不安なく生活が送れるように関係機関（家族・ケアマネ）と情報交換を行いながら課題解決の為、連携に努める事が出来た。又総合事業の受け入れに対しては過剰なサービスにならないように支援内容を十分に把握し自立支援に向けた支援につながるように努めた。研修の積極的な参加が不十分だった。

<居宅介護支援事業>

・地域ネットワーク会議や地域ケア会議、自立支援ケア会議に参加する事で行政や各地区地域包括支援センター、その他各関係機関との連携を図る事が出来た。

・入院時の情報提供や退院時のカンファレンス参加等で医療機関との連携を積極的に行う事が出来た。

・各種研修会参加や他法人との事例検討会を実施し、ケアマネージャー個々のスキルアップが出来た。

<給食サービス事業>

・配食数・利用者数共に前年度にくらべ、年間 鳥栖地区が 1,654 食 みやき町が 256 食減少した。利用者数は鳥栖地区が 104 人減少 みやき町は 24 人増加している。利用者数、食数ともに減少している為、事業運営も厳しい状況が継続しているが、30年の11月より若干増加傾向にある。

・利用者のニーズに合った食事形態の対応をし、同時に食中毒予防、感染症予防にも努めた。

・配食時の安否確認を行い、必要に応じて行政等への情報提供を行った。車両事故に関して1件発生。停車中の追突事故であった為、今一度安全運転を心がけるよう徹底する。

<鳥栖市鳥栖西地区地域包括支援センター>

鳥栖西地区地域包括支援センターは包括支援センター事業の委託を受け9年目を迎える。介護・福祉行政の一翼を担う「公益的な機関」として、公正、中立性の高い事業運営を今後も継続して行っていく。

平成30年4月より新たに「認知症地域支援推進員兼生活支援コーディネーター」が配置となり、地域包括ケアシステム構築に向けての包括支援センターが担う役割も大きくなっている。今後も地域に根付いた活動と高齢者の生活を総合的に支えていく為の拠点づくりを目標とし、地域の方が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、今年度も積極的に活動を行っていく。

<ケアハウス花みず木>

・平成30年4月1日の段階で3名入居され、30名でのスタートとなりました。7月以降、入退去を繰り返しながら満床維持に努めておりましたが、3月に1名退去者が出た為、3月31日現在で29名となりました。最終的には、本年度入居率は98.5%で、新規入居者7名 退去者5名でした。

・入居者に対しては、精神面にも気を配り、入居者の声・訴えに耳を傾け、不安等が解消できるよう努めました。又、体調不良による緊急時の対応も真心の園医務課と連携を図り対応を行いました。

・入居者に生活上の問題が発生した際は、家族・医療機関・福祉事業所と密な連携を図り対応しました。

・活動行事では、入居者が喜ばれる行事を実施し、地域の方々との交流の機会を設けた事で実のある交流を実施することができました。

<グループホーム和が家>

・主治医や訪問看護ステーションとの連携により、利用者の体調管理や急変時の適切な対応に努めた。

・地域との関わりを深める為、夏休みのラジオ体操の際には子供クラブにグループホームの敷地を開放したり、納涼祭に招待し入居者も喜ばれた。地域の代表者やご家族などにグループホーム運営推進会議へ参加していただく事ができた。グループホーム野菊の里やなかばる紀水苑の行事に参加した。

<グループホームみどりヶ丘>

・「ひとりひとりのマイホーム」を目指し入居者様が自分らしく過ごせるホーム作り、自立支援に努めた。

・月1回入居者が楽しめる行事を企画・実施する取り組みを行い、入居者様と職員一緒に楽しんだ。

- ・地元の催し物に積極的に参加したり、介護予防体操や勉強会等を通してみどりヶ丘団地の皆さんとふれあったり、地域の中のグループホームを目指し地域との関係作りに努めた。
- ・保育園が隣接されている事を活かして、園内の散歩など日常的な子供とのふれあいで心身の活性化に努めた。
- ・ホーム内外の研修に参加し、職員の質の向上に努めた。

<みどりヶ丘保育園>

- ・延長保育、一時保育、休日保育と保護者の勤務時間のニーズに応えた保育を行ってきたが、一時保育では出産のために兄、姉を預けるケースが増え、核家族化により祖父母を頼れない為の利用も増えた。延長保育は月決め者が減り、急な残業等による日割り延長者が増えた。
- ・支援センターは地域の子育て中の若いお母さん方に対し、遊びの広場、公民館の出前保育等において育児相談を実施。子育てに悩むお母さん方のよき相談相手となっている。
- ・発達障害が多くなり対応に苦慮しているところであるが、保護者との信頼関係を築き関係機関との連携を密にして早期療育に向けて努めてきた。
- ・同一敷地内のグループホームとの交流も随時行う。

<まごころ保育園>

- ・平成30年4月1日に事業所内保育施設として開園し、開園時4名でのスタートであったが、職員や地域枠の利用者も増えて16名（職員7名、地域枠9名）の園児を預かることができた。年間を通して未満児の問い合わせが多く、定員数を超えても受け入れができるよう今後柔軟に対応していきたい。
- ・園児数増と同時に行事等も充実させ、真心の園の利用者との交流も随時行った。
- ・初年度より発達障害児の対応に苦慮したが、保護者との信頼関係を築き、関係機関との連携を密にすることで対応に努めた。

鹿児島事業部

<ケアハウスかせだ>

平成31年3月31日現在の在籍数は30名（単身24名 夫婦3組の入居者）となっております。高齢化が進み平均年齢が85歳を超えています。介護認定者は21名となり訪問介護利用者が8名、認知症対応型デイサービス利用者が6名、有馬病院デイケア利用者が7名となっております。

<デイサービス事業>

(デイサービス遊逢)

上半期は施設入所、入院と続き利用者確保に苦労したが、下半期に入り、新規利用者の確保ができ、利用率の向上に繋がった。一方で重度の利用者が増えることで、スタッフの負担も増え、サービスの質の低下を招く状況であった。また、併設施設のデメリットである、入浴時間の確保ができないことが、今後の利用者確保の課題として残った。

(デイサービス金峰やすらぎ館)

平成30年度は新規利用者契約数9件、稼働率82%、利用終了者は8名。(施設入居4名、死去2名、入院1名、転居1名)前年比は一日平均件数でマイナス0.2件であった。今後も利用者や家族のニーズに合わせた細やかな認知症ケアを提供しながら、当デイサービスの特色を営業活動に展開していきたい。

<ホームヘルパー事業>

昨年度1年間の利用終了者が14名で死亡や施設入所が要因であった。事業所名称の変更もスムーズに周知され、サービスの質向上に努力した結果、新規利用者が25名確保できた。ヘルパーも1名確保でき、7名体制となり、今後1名の増員を予定し、6月1日開設の有料老人ホーム入居者のニーズに対応できる体制づくりに努めてまいります。

<かせだフレンドホーム>

一人ひとりの「気づき」を大切に各部署の連携を密にして長期入院とならないように共通認識で取り組むことが出来た。また、入退所についても共通認識で関係機関との連携を図りスムーズな入退所へ繋げることが出来た場合もあったが一部在宅からの入所に時間を要したので待機時より連絡調整を行っていくこととする。

<相談支援事業彩>

障害者計画相談については主に施設入所者の障害支援区分見直し等によるサービス更新がなかったため計画作成が減少、モニタリングについても対応困難者の支援終了や長期入院等によりモニタリングの実施ができなかった利用者が数名いたため前年度より減少した。その一方で障害児相談支援については前年度同様、新規契約が増えたが幼稚園、保育園の卒園に合わせた年度末のサービス利用終了者も多数いたためモニタリング数としては昨年度とほぼ変わらなかった。利用者本人のみならず保護者等も含めた家族支援を必要とする利用者が増加している傾向にあるため今後も行政や地域、各サービス事業所等と連携を図り、安心して地域での生活を送れるよう支援体制を整える。

<グループホーム金峰やすらぎ館>

- ・30年度は入退居が5件ありましたが、いずれもスムーズに対応することが出来、年間平均の入居率が97.5%と順調でした。また、長期入院の入居者の方も少なく健康に過ごして頂くこともできました。
- ・職員が退職してから、補充が上手くいかず入居者の方々への処遇面、職員の外部研修等への参加が思うように出来ませんでした。
- ・認知症の啓発活動として地域の中で活動を行い、地域の中の拠点として活動することが出来ています。

<グループホーム椎原館>

- ・30年度は、4月、6月に1名ずつ退去、5月、6月に1名ずつ入居されました。
- ・待機者は8名です。順調に待機者は増加しております。
- ・11月に非常勤1名、2月に常勤1名入職。
- ・運営推進会議に、公民館長様や自治会長様にお声掛けするなど、少しずつ地域との関係構築に努めております。